

# さちひろ

発行：天理教狭千廣分教会 〒589-0021 大阪狭山市今熊1-1133 Tel.072-365-2571  
E-mail:wat@sachihiro.com url:http://sachihiro.com 編集兼発行人・山口 渡

天理教狭千廣分教会の広報紙  
1面・見直される修身の教科書  
2面・よろこびいっぱい  
3面・おやさま逸話篇から  
4面・教会の動き・編集後記

## 教会の動き

- 朝づとめ…毎朝・6時30分
- 夕づとめ…毎夕・7時00分
- 春季大祭…1月21日午後1時30分
- 秋季大祭…10月21日午後1時30分
- 月次祭…毎月21日 午後1時30分
- 春・秋季霊祭…3月22日、9月22日 午後1時30分



教祖百二十年祭

※教会の場所は、左の地図の●マーク。市立公民館の裏・西側です。



教祖百二十年祭・全教一斉ひのきしんデーが4月29日に、全国各地で実施されます。今年は、目標五十万人を達成すべく、支部をはじめ、教会でも、多くの方の参加を呼びかけています。

わたしたち、阪南支部第五組（大阪狭山市地区）は、次の場所（上の地図・教会の北側）で実施します。家族そろって、ご参加下さい。

●4月29日（土）9時～11時  
場所 大阪狭山市今熊1丁目  
戦没者慰霊碑斎場周辺  
内容 除草・清掃  
連絡 山口 渡（365-2571）まで。

生かされて 生きる  
このことに気づいたら  
感謝の心が生まれます  
その喜びをいかに  
あらわすことが  
「ひのきしん」

## 編集後記

▼遅れていた桜の開花も、ここにきて、ようやく見頃となりました。

▼桜の季節は、新しい年度の始まりでもあります。わが家にも住み慣れた家を離れて、天理で寮生活を送るようになった輩が一名います。きのう、その入学式に行つて参りました。

▼新しい境遇への第一歩は、だれしも希望より不安の方が大きい旅立ちのように、感じものです。しかし、そこでしっかりと耐えて、早く新しい環境に慣れてもらわないといけません。

▼修身の教科書、その内容が話題になっています。巻頭の一文はその紹介です。

▼桜の開花と同期して本紙の発刊も不定期になつてしまい申しわけございません。

さちひろ 第10号  
編集兼発行人・山口 渡  
平成18年4月8日  
大阪狭山市今熊1丁目1133番地  
Tel. 072-365-2571

## 見直される「修身の教科書」

歴史学者のアノルド・トインビーは古代ローマ帝国の興亡を研究して、こう言っています。  
「一つの国が減じるのは、戦争によつてではない。天変地異でもなければ、経済破綻によつてもない。国民の道徳心が失われた時にその国は滅びる」と。  
この国の現状を見ると、トインビーのこの言葉が身にしみますね。  
ところで『修身の教科書』（サンマーク出版）の著者・小池松次さんが『Wii』-2005年11月号に「石原慎太郎氏にまで批判された『修身の教科書』」を寄稿されています。その表題のコピーに「修身を広めないと日本は滅びる！」と謳っています。  
「なんや今ごろ修身つかか。時代錯誤じゃないの？」と呆れる方もおいでかも知れません。  
しかし、これが一時荒廃した欧

米の社会の立替に大きな力を發揮したことを知れば、あなたが時代遅れと言つて見向かないのはどんなものでしょうね。  
この本の著者・小池松次氏の言葉がネットでも紹介されています。  
明治四十一年にロンドン大学で国際道徳教育会議が開かれました。そこに提出された日本の修身教育は各国の注目を集め、道徳教育の粹として絶賛されました。以来、多くの国が範を日本の修身教育に求め、修身を参考に道徳の教科書編んでいくのです。このことは各国の道徳教科書を見れば、容易に跡づけることができます。そのことを知らないのは日本人だけです。  
また、現代のアメリカも日本の修身教育から大いに学んでいます。  
アメリカも学校に暴力がはびこり、学力が著しく低下し、麻薬さえ蔓延して、教育現場が荒廃した時期がありました。

時のレーガン大統領は日本に使節団を派遣し、その代表のベネットは『道徳読本』を書きました。それは三千万部という大ベストセラーになり、それを基盤にアメリカは再建に向かったのです。その『道徳読本』を読んだ驚きました。私が戦前の修身と国語の教科書からいい話を百話選んで編纂し、昭和五十一年に自費出版した『修身・日本と世界一今こそ日本も考えるとき』と中身がそっくりだったからです。戦後、西ドイツのアデナウアー首相は日本の修身に学んだ道徳教育を推進して復興を果たしました。イギリスのサッチャー首相は道徳教育を強化する教育改革を行つてイギリスを蘇らせました。ロシアや中国でも国民教育に力を入れていくのは、教科書を見れば明らかです。（伊勢雅臣「国際的評価の高かった日本の修身教育」）

修身の教科書は、昭和20年12月31日、占領軍が、廃棄処分だけじゃなくて回収命令を出して、日本中から無くしてしまいました。入手するのが不可能に近い状態だったそうです。国会図書館にもない！ 小池さんは日本全国をまわつて、昭和29年から30年の1年かけて、44種類の修身教科書を集めて昭和45年に『これが修身だ』を自費出版。それが元になつて上梓されたのがこの本。内容は、短い偉人伝集です。  
少年少女には、具体的な事例をあげて人間のあり方（偉人の生涯）を説いて聞かせたいですね。抽象的な話は、頭のいい子には理解できても、わたしのような愚才には話が実感として伝わってこないのです。

修身の教科書があがっている事例は、だれでもわかる内容で、共感するところが多い。海外では高く評価されているのに、国内注目されないのは「今ごろ修身つかか？」という偏見によるのでは…。

修身の教科書は、昭和20年12月31日、占領軍が、廃棄処分だけじゃなく、回収命令を出して、日本中から無くしてしまいました。入手するのが不可能に近い状態だったそうです。国会図書館にもない！ 小池さんは日本全国をまわつて、昭和29年から30年の1年かけて、44種類の修身教科書を集めて昭和45年に『これが修身だ』を自費出版。それが元になつて上梓されたのがこの本。内容は、短い偉人伝集です。  
少年少女には、具体的な事例をあげて人間のあり方（偉人の生涯）を説いて聞かせたいですね。抽象的な話は、頭のいい子には理解できても、わたしのような愚才には話が実感として伝わってこないのです。



天理の紹介

よろこびいっぱい

「葡萄のよう」に「丸い心」に

世界のあちこちで、いまでも戦争が起こっています。罪のない人が巻き込まれるテロ事件もあとをたちません。きつとキミたちもテレビで見たことがあるでしょう。人間同士、お互いが憎しみあい、傷つけあう。こんな悲しい姿はありません。だって、私たち人間は、みんな親神様の子ども。兄弟姉妹なのです。

教祖はあるとき、ブドウを手にとつて、「世界は、この葡萄のようになあ、皆、丸い心で、つながり合うて行くのやで」と、仰せになりました。

ブドウが三角や四角だったら大変。

お互いを傷つけあいます。

丸い心は、互いを思いやるやさしい心。

そしてつながり合うとは、お互いに支え合いたすけあうこと。

いま、私たちにできることは、家族やお友だちが丸いこでつながっていくこと。お互いをおもいやつてたすけあうこと。その輪が少しずつ広がれば、いつかきつと争いのない世界になるでしょう。

(リトルマガジン・天理少年平成18年3月号より)



幸せを届ける言葉

高橋美津志「ちよつとひとごと」

(善本社刊) から

ブレイキ

「車はブレイキがあるから走れる」

この川柳は走行安全のために、ブレイキの点検を怠るな、との戒めと思う。考えると、

人間には善悪の考えを選択し、悪意にブレイキをかける良心がある。

素晴らしい良心を持つておれば、誰でも平穩で、明るく楽しい生活ができる。

だが、逆に最近、ブレイキをつかさどる良心を失った

危険な人間が増えて

残忍な犯罪が連日に起きている。

ある人が、

今の世は良心喪失時代といった。

思わず、

良心を失った原因を問うと、

彼は、家庭での宗教教育の欠落にあると、

淋しく答えてくれた。

『稿本天理教教祖伝逸話篇』 13

撰津国安立村に、「種市」という屋号で花の種を売つて歩く前田藤助、タツという夫婦があった。二人の間には、次々と子供が出来た。もう、これぐらいで結構と思つていたら、慶応元年、また子供が生まれることになった。それで、タツは、大和国に、願うと子供をおろして下さる神様があると聞いて、大和へ来た。しかし、そこへは行かず、不思議なお導きで、庄屋敷村へ帰り、教祖にお目通りさせて頂いた。すると、教祖は、「あんたは、種市さんや。あんたは、種を蒔くのやで。」と、仰せになった。タツは、「種を蒔くとは、どうするのですか。」と、尋ねた。すると、教祖は、「種を蒔くというのは、あちこち歩いて、天理王の話をして廻るのやで。」と、お教えになった。更に、お腹の子供について、「子供はおろしてはならんで。今年生

種を蒔くのやで

まれる子は、男や。あんたの家の後取りや。」と、仰せられた。このお言葉が胸にこたえて、タツは、子供をおろすことには思いとどまった。のみならず、夫の藤助にも話をして、それからは、夫婦ともおちばへ帰り、教祖から度々お仕込み頂いた。子供は、その年六月十八日安産させて頂き、藤次郎と名付けた。こうして、二人は、花の種を売りながら、天理王命の神名を人々の胸に伝えて廻つた。そして、病人があると、二人のうち一人が、おちばへ帰つてお願いした。すると、どんな病人でも次々と救かった。

【解説】

● 檜神社 (棟本)

奈良には、檜良とか檜吉、奈良菊等の名前を持つおじさんやおばさんがよくいます。これは檜神社にお願いして子供を授けて頂くと「檜」とか「奈良」

「なら」の字をつける信仰によるものです。身体の弱い子は、境内で捨て子の形式をとつて、改名すると丈夫に育つとも言われたようです。

教祖伝にはそうした名前前の人物が多く登場しています。平野檜藏、梶本檜治郎、上田ナライトなど。

ちなみに「トメ」はストップの意味がこめられています。この子供で最後の出産にしたいという願がこめられているのです。スエノ、末子などの名前も同じでしょう。

● このお話のテーマ

・「子供はおろしてはならんで」↓當時まびきと称して墮胎が広く行われていました。それを戒められた点。

・「種を蒔く」↓天理王命の神名を人々の胸に伝えて廻ること。